

## 在住外国人妊産褥婦に対するケアを調整するための確認リストの開発

Development of Checklists to Adjust Maternity Care for Foreign Women in Japan

渡邊恵美里<sup>1</sup>、五十嵐ゆかり<sup>2</sup>

Emiri Watanabe, Yukari Igarashi

1 河北総合病院 2 聖路加国際大学

1 Kawakita General Hospital 2 St. Luke's International University

### 【背景と目的】

在住外国人女性も、ケアを提供する周産期スタッフも、社会的な問題や言語の違い、文化の違いによって戸惑いや困難を抱えている。また、早期からの問題の把握と対応の重要性も示唆されている。本研究は、在住外国人女性に適切なケアを提供するために、妊娠・分娩・産褥期の文化的に配慮が必要なことやそれに関連したニーズを引き出し、ケアを調整するための確認リスト（以下、確認リストと表記）の開発を目的とする。

### 【方法】

文献検討をもとに、在住外国人妊産褥婦、および在住外国人妊産褥婦のケア経験のある助産師の抱える困難を抽出した。そして、その困難の解決するための代替案を選択できる確認リストを作成した。さらに周産期に関連した知識を項目化し、外国人妊産褥婦が知りたい内容を選択できるようにした。確認リストは、内容ごとに外国人妊産褥婦が妊娠初期に記入する妊娠期用確認リスト、妊娠後期に記入する分娩期用確認リストと産褥期用確認リストの3つに分け、各期に関連する項目を整理した。言語は「やさしい日本語」を使用した。妥当性を担保するため、助産ケアの専門家数名により意見をもらい、修正して試作版確認リストとした。外国人妊産褥婦へのケア経験のある助産師に質問紙法にて確認リストの回答のしやすさと内容の適切性について評価を依頼した。評価に基づいて試作版確認リストの内容を改善し、完成版確認リストを作成した。

なお、この研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会での承認を得て行っている。（承認番号：18-A051）

### 【結果】

2018年10月1日～10月30日の期間において、4施設にて外来および病棟での外国人妊産褥婦のケア経験のある助産師32名に対し研究協力を依頼したところ、21名より同意書への署名及び質問紙への回答を得た。

回答のしやすさ、内容の適切性について、概ね良好に評価された。内容の適切性については記述回答欄にて具体的な改善案を得た。確認リストの項目に対する改善点の指摘はなく、追加内容が記述されていた。その内容は、「通訳の確保」と「文化的な習慣」に大別された。妊娠期の確認リストに関しては、家族や知人を通訳として同伴できるかを確認したいと回答した人が12人で過半数を超えた。分娩期の確認リストにおいては、文化的な理由から避けたい医療処置があるか、分娩当日に自分で通訳を連れてこられるかを確認したいという意見があった。産褥期の確認リストでは、人工乳の使用や褥婦の食事に関する宗

教的な希望を確認すべきだという意見が多かった。また、知識を確認すべき内容として、感染症や常位胎盤早期剥離といった正常からの逸脱についての項目、産前産後の役所での手続きに関する項目のほか、多くの追加項目が挙げられた。

確認リスト全体に対する意見としては、外国人に利用されるには多言語化、特に英語への翻訳が必要という意見が多かった。また、確認リストの項目を現行の問診表に入れた方が良いという意見と現行の問診票とは別に外国人用問診票として作成した方が良い、という意見があった。活用方法がイメージしにくいという意見もあった。さらに、施設ごとに対応できる内容が異なるため、質問項目の統一は困難であるという意見もあった。

評価に基づき、完成版確認リストを作成した。活用方法・修正方法や多言語ツールの活用を提案する利用ガイドを作成した。

### 【考察】

確認リストの内容に対して、食事だけでなく医療処置や人工乳の利用などと文化的な習慣の調整を前提とした幅広い確認事項の追加が求められた。このことから医療現場における在住外国人の背景が多様化していることが改めて明らかになった。また通訳に関して、家族が同伴可能か、自分で通訳者を用意できるか、という質問項目の追加の指摘が多く、医療施設側での通訳を手配が困難であること、家族などの近親者に通訳に依存しているという現状が改めて確認された。

確認リストの使用方法については、「やさしい日本語」だけではなく、多言語化の必要性が多く指摘された。これは、医療者に対しまずは「やさしい日本語」を使用してのケアの可能性を説明するとともに、本リストはケア提供の際に使用できるツールのひとつであることのさらなる周知が必要であるといえる。一方で今後は、多言語化も進め、地域によって言語を選択できるようにすることも必要であるといえる。

知識の確認項目には、多数の項目の追加の指摘がされたが、その背景として、これまで外国人妊産褥婦の知識の理解の確認が十分ではなかったためトラブルが起ったのではないかと推測される。このことから、確認リストの使用と併せて、WEB上にある有益なツールの活用を促すため、サイトを精査し、信頼性の高いツールを確認リストの利用ガイドで紹介することとした。

確認リストは概ね良好に評価され、外国人妊産褥婦への支援に活用が可能であると示唆された。結果に基づき改善した完成版確認リストおよび利用ガイドは編集可能な形で公表した。

### 【利益相反】

本研究に関して開示すべき利益相反関連事項はない。